

平成25年度病虫害発生予察予報第10号(1月)

平成26年1月7日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	べと病	並
	褐斑病	少
	うどんこ病	<u>やや多</u>
	つる枯病	並
	黄化えそ病	並～ <u>やや多</u>
	退緑黄化病	少
	ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多</u>
	タバココナジラミ	並
促成ナス	黒枯病	<u>多</u>
	すすかび病	<u>やや多</u>
	灰色かび病	<u>やや多</u>
	ミナミキイロアザミウマ	少
	ヒラズハナアザミウマ	少
	タバココナジラミ	並
	ハモグリバエ類	少
促成ピーマン・シシトウ	黒枯病	少
	うどんこ病	<u>やや多</u>
	アブラムシ類	<u>やや多</u>
	ミナミキイロアザミウマ	並
	ヒラズハナアザミウマ	並
	タバココナジラミ	並
	ハダニ類	少
	ハモグリバエ類	少
	コナカイガラムシ類	多
促成トマト	灰色かび病	少
	葉かび病	少
	すすかび病	少
	黄化葉巻病	<u>やや多</u>
	タバココナジラミ	<u>やや多</u>

I 気象予報(高松地方気象台 平成26年1月3日発表)

<予想される向こう1か月の天候> 1月 4日から2月 3日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の50%です。

<確率>

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1ヶ月	気 温	四国地方	30	40	30
	降 水 量		30	40	30
	日照時間		30	40	30
1週目	気 温	四国地方	20	50	30
2週目			30	40	30
3~4週目			30	40	30

<予報の対象期間>

1ヶ月 : 1 月 4日(土) ~ 2月 3日(月)

1週目 : 1 月 4日(土) ~ 1月 10日(金)

2週目 : 1 月11日(土) ~ 1月 17日(金)

3~4週目: 1 月18日(土) ~ 1月 31日(金)

II 病害虫発生予想

1. 抑制・促成キュウリの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、県中央部、中西部で、発生面積が平年に比べ多く、発病葉率も高い。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、晴れの日が多いと見込まれることや、厳寒期であるため加温機の稼働時間も長くなり、本病害の病勢を助長する状態が予想されており、現在の発生状況から平年よりやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 蔓延後は防除が困難になるので、初期防除を心がける。
- (2) 発病の多い下葉や葉裏へは、かけ残しのないよう丁寧に散布する。

2) 黄化えそ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並~やや多

根 拠

- (1) 巡回調査では発生面積は平年並の発生であるが、県中央部では先月より発生面積が増加傾向で、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生も平年に比べて多い。
- (2) 向こう1か月の気象予報より、媒介虫の飛び込みは少なくなり、本病害の発生も鈍化し、爆発的な増加はないと考えられるが、既発ほ場で増加傾向になることも予想され、平年並~やや多発

生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 感染源になる発病株は見つけ次第早めに除去する。
- (2) ミナミキイロアザミウマは生長点部を好んで寄生するため見つけにくく、また、薬剤もかかりにくいことから、散布にあたっては丁寧な散布を心がける。また、薬剤感受性低下を避けるため、同一薬剤や系統の同じ薬剤の連用は避ける。
- (3) 青色粘着資材等の物理的防除も併用し、ハウス内の密度低減に努める。

2. 促成ナスの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 県東部～中央部で、発生が多く、県中央部では発病度も平年より高い。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温は低く、晴れの日が多いと見込まれることから、発生を助長する要素は少なく、急激な病勢の進展はないものと思われる。しかし、無加温栽培等では蒸し込みによる換気不足も懸念され、今後も発生はやや多で推移すると予想される。

対 策

- (1) 蔓延する前の初期から防除を徹底する。また、耐性菌発現を防ぐため同じ薬剤の連用は避ける。
- (2) 急激な温湿度管理や極端な肥培管理は草勢を低下させ、病勢進展を助長させるので避ける。

2) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多

根 拠

- (1) 県全域で、平年より発生がやや多く、発病度も平年より高い。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温は低く、晴れの日が多いと見込まれることから、発生を助長する要素は少なく、急激な病勢の進展はないものと思われる。しかし、無加温栽培等では蒸し込みによる換気不足も懸念され、今後も発生は多いと予想される。

対 策

- (1) 蔓延する前の初期から防除を徹底する。また、耐性菌発現を防ぐため同じ薬剤の連用は避ける。
- (2) 急激な温湿度管理や極端な肥培管理は草勢を低下させ、病勢進展を助長させるので避ける。

3) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並

根 拠

- (1) 現在、県東部から中央部で発生が多いが、主産地の県東部では並で、県全域でも平年並の発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報からは極端に増加する要素は少く、現状の平年並で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発生初期から薬剤防除を行うが、薬剤感受性低下回避のため系統の同じ薬剤の連用を避ける。
- (2) 黄色粘着資材等物理的防除も併用し、ハウス内の密度低減に努める。

II 促成ピーマン・シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、県全域で平年に比べてやや多～多発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、晴れの日が多いと見込まれることや、厳寒期であるため加温機の稼働時間も長くなり、本病害の進展を助長することが予想され、現在の発生状況から平年よりやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 蔓延すると防除が困難になるので、初期防除を徹底する。

2) アブラムシ類

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、県中央部及び県中西部で発生面積は多発生であるが、寄生株率はやや低い。
- (2) 厳寒期であり野外からの飛び込みは少なく、効果的な天敵の働きもありハウス内での増殖も落ち着くと思われるが、現状の発生状態から平年に比べてやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 高密度になると防除が困難となるため、早めの防除を心がける。また、薬剤感受性低下回避のため同一系統の薬剤の連用は避けるとともに、天敵導入ハウスでは天敵への影響の少ない薬剤や微生物資材等も活用する。
- (2) 黄色粘着資材等物理的防除も併用し、ハウス内での密度低減に努める。

III 促成トマトの病害虫

1) トマト黄化葉巻病(TYLCV)

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、発生面積はやや多で、発病株率は平年並。媒介虫であるタバコナジラミの発生はやや多発生である。
- (2) 厳寒期で媒介虫の飛び込みも少なく、ハウス内での増殖も抑えられることや、発病株の除去や媒介虫の防除が徹底されていることから、爆発的に増加することはないと思われる。

対 策

- (1) 感染源になる発病株は見つけ次第除去する。
- (2) 本病を媒介するタバコナジラミは、発生初期から防除を徹底する。薬剤散布に際しては、薬剤感受性低下回避のため同一系統薬剤の連用は避けるとともに、黄色粘着資材等の物理的防除も併用し、ハウス内での密度低減に努める。

2) すすかび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:少

根 拠

- (1) 現在、発生面積、発病度ともにやや少発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、病勢を助長する要素はないが、ハウス内換気不足による多湿条件で病勢が進展することも予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 高温多湿が病勢を進展させることから、適正な温湿度管理に留意する。
- (2) 窒素過多による過繁茂は発病を助長するので、適正な肥培管理や摘葉等の作業を遅れないように行い、草勢を維持する。

県民の皆様に提供する農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

2. こうち農業ネットサービス※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

- <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/>（Iモード）
- トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ezweb）
- 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ①病害虫発生予察情報（概要）